

【活動事例の紹介】

教室名	三尻っ子放課後スクール
-----	-------------

取組内容

1 田植え【6月26日】・稲刈り【9月25日】体験

田植え：参加人数 79 名（内訳：子供 24 名・教育活動サポーター30 名・保護者・運営委員等 25 名）

稲刈り：参加人数 45 名（内訳：子供 19 名・教育活動サポーター19 名・保護者・運営委員等 7 名）

毎年恒例の行事で、おやじ俱樂部が主催となり地域の水田を使って実施している。市内のおやじ俱樂部と連携し、他校の児童と共に活動を行った。本年度は市内他校の児童参加者を分散するなどの感染対策を講じて実施した。また、収穫したお米は、本校に隣接する三ヶ尻八幡神社を通じて、神奈川県鎌倉市の鶴岡八幡宮の神様に大イチョウのしめ縄と共に奉納される。コロナ禍前には本活動に鎌倉市の鶴の子会の方々も参加していた。



【田植えの様子】

2 ウィンタースクール【12月3日】

参加人数 146 名（内訳：子供 99 名・教育活動サポーター47 名）

〈概要〉

青少年健全育成を主目的とし、参加者児童（1～6年生）は、ゲーム等を通して、地域の企業・団体との交流や、荒川の環境保全理解に触れる活動となった。

〈内容〉

コロナ禍前は例年10月下旬に「オータムスクール」という名称で学校の施設を使用し、ゲームや宿泊をしていた。今年度もコロナ感染状況の影響で秋の開催を延期し、感染対策を講じながら、土曜日の午後を利用し、体や頭を使ったゲーム、最後は熊谷工業とのコラボレーション企画としてプロジェクションマッピングを実施・鑑賞し、思い出に残るスクールとなった。

工夫した点・ポイント

○打合せの充実

コロナ禍での開催で、ゼロベースから充実したスクールとなるよう、コーディネーターであるおやじ俱樂部部長と、放課後スクールの主旨が達成できるよう、打ち合わせを重ねることで、当日はスムーズな運営をすることができた。

○活動の班編成の工夫

ウィンタースクールの班編成を縦割りにすることで、学年を超えた交流ができるとともに、上級生の子供たちの責任感を養うことができた。



【ウィンタースクールの様子】

成果・今後の展望

学校運営協議会の中で話題にすることで三尻っ子放課後スクールの活動内容を更に充実させ、コミュニティ・スクールの考えを推進していく。

同時に、教職員やPTA役員の働き方改革等を考慮して、組織や運営の方法をさらに検討する。